

ちカーキ色の軍服であつた。所で、この色は、三千メートルも離れると、丸で、空気の色と同じ様に見えて、一向見分けがつかなくなる。そこでさすがの英軍も之には、殆んど閉口したのであつたが、終には英軍の方でも、之に倣つて、植物質の染料を使つて、其軍服を、皆同様な薄黄色にして仕舞つたのだといふことです。

お多福會 (續)

林 天然

お多福共は達磨にすねられて、すつかり酔が醒めてしまひました、そこで唯其儘解散するのも餘り興がない、天氣の善いのを幸ひ、一つ運動會をやらうと一決しました。

『マア何がよいでしよー？』

『驅ツくら！』

『それが宜いでしよー』

一同が廣々とした庭へ出た、一町半許り向へ、赤と白との旗二つたて、其赤旗を取るものには、鏡一個を、白旗を取るものには、白粉一箱を與へることに定め、やがて數十人のお多福が一行に併びました、丈や結髪や衣服や帯は、悉く違つて居るが額が狭いのと、頬が膨れ出て鼻が小さいのと、目が細くて耳が大きいのと、軀幹のデブ／＼肥満てる所は、皆一樣であります、用意整ふと、年老つたお多福が、『イチニ一のサーン!!』と相圖をするのと、お多福共は驅けるがかけるが、もう一生懸命皆兩手を握つて胸へ當て、河豚の様に小さい口をすばめ、ブクリンと頬を膨らして、馳け出した、然し其走るのは極めて意氣地がない恰で水蝸鼠に逐

はれて、逃迷ふ家鴨の様に、ヨタ／＼と駈ける、
 そして一町餘りも走つた頃には、もう歩けなくな
 つて、尻餅を搗くものあり、四ツん這になつて、
 のたくり出すものあり、草履をぶつばなすものわ
 り、帯が解けて二三尺も地を引ずるものもあつて
 六分はもう参つてしまひました、でいよ／＼勝負
 がついた、お牡丹さんが赤い旗を、お饅さんが白
 い旗を、第一番に取つた、其二人は嬉し紛れに、
 ヤアと黄色な聲で同時に叫んだ『お牡丹さんお目
 出度う／＼』と大勢から祝はれたので、お牡丹さ
 んは大得意、大勢は亦お饅さんの胴上をした、お
 饅さんは別して大元氣、ヤア／＼と上げ下ろしさ
 れる度毎に、手足を伸ばしたり、縮めたりして跳
 躍つた、これで運動會はもう終たのである。
 一同は高く唱歌を詠ひ、室内へ還らうとした、所

へポテポテとした布袋様、是れも年始還りとみえ
 少し酔ひながら『待つた／＼おかみさん！、令嬢
 君！、まだしまうのは早い、もう一度運動をやり
 ましよう、鬼ツむっこをやらう』と、頻に運動を
 やりたがる、お多福も今日は晴れの日、殊に未だ
 早いから、一ツ和尚を黽てやらう』とそんなら布
 袋さん鬼にお成りなさい』といふので、彼所でも
 此所でも手を拍て『布袋さん此所／＼／＼和尚さ
 ん此所／＼／＼』と打暈した、い、年をした布袋
 が、大きなお腹を前へ突出してヨロ／＼と追廻は
 した、布袋もお多福もお腹が大きくて足が短いから
 その歩き方がまことに可笑い、遂にはヨツチヨイ
 ／＼と掛聲で駈け廻はるが、一人も捕へることが
 出来ない、すると年若いか多福などは、後から布
 袋のテカ／＼頭をピタリとたゝき『布袋さん此所

!! ~ ~ !!』と擡那ふ、彼所では大勢手を拍き
 聲を揃へ、布袋、福祿、毘沙門、辨天!!!』と謔ひ
 はやしてる、布袋はもう、はとくして『已アも
 う止すだ、何時まで追驅けたッて、際限がない、己
 ア鬼はもう辭職するだ、誰れか候補者に立ち給へ』
 と追驅ける氣がない、お多福共は少し張合抜けし
 たけれども、愛嬌笑ひオツホホー『鬼になつて
 やらぬものは、天竺寺の餉箱脊負て炮烙爺〜』
 と、謔ひながら布袋の周圍を取巻いた、布袋はず
 るい、態と知らんふりをして、不意に近寄つた一
 人をとらへた、もう役わがり。其お多福が代つた
 大勢が『お多さん此所!! ~ ~!!』と打囃すと、布
 袋も愛嬌顔へ皺をよせ、さも樂しさにニコ〜
 笑ひ『お多ッ平此所!! ~ ~!!』とビヨツトビヨロ
 ~、駈け廻はり、ころふやら起さるやら大騒ぎ。

で午後三時頃愉快に運動會は終りを告げた。それ
 から布袋はお多福共に別るゝに臨み『お多福諸君
 萬歳! 萬々福!!』と三呼した、お多福も一同聲を
 わげ『布袋大人萬歳! 萬々歳!!』と祝返へした。
 やがてお多福共は室内へ入り、猶一度茶話會を開
 き、頬邊たゞきながら、アンコロ餅を澤山喰べて
 仲善く新年宴會をすませて、お別れを致しました
 とお先はおめでたう!!!